様式1－3(統一栽培暦様式)

もっと安心農産物 キャベツ（冬どり）栽培暦（令和８年）

JAちばみどり 海上野菜組合産直部

1. 土づくり

・完熟堆肥2トン／10aを施用するか、エン麦・ギニアグラス・ハブソウを輪作体系として作付けする

2. 施肥 ☆施肥診断にもとづく施肥量の遵守 **化学肥料窒素成分使用量14kg／10a以下**

基肥は①、②、③のいずれかを選択する。

	肥料名	施肥量
基肥	①マイルドユーキ030号（10-13-10 有機態窒素 5.3）	100kg／10a以下
	②エコレット866(8－6－6 有機態窒素 4.1)	140kg／10a以下
	③ちばみどり有機888(8－8－8 有機態窒素 1.2)	160kg／10a以下
	苦土石灰	60kg／10a
追肥	マイルドユーキ030号（10-13-10 有機態窒素 5.3）	60kg／10a

3. 防 除 **化学合成農薬 8成分回数まで(苗購入の場合6成分回数まで)**

(カスミンボルドー・Zボルドー・スピノエース顆粒水和剤・エスマルクDFは、化学合成農薬に含めない)

月	管理作業	病害虫の発生推移	薬剤名	希釈倍数・処理量	回数	対象病害虫	備考(耕種的防除の実施等)
8月中旬	播種	ネキリムシ→ヨトウムシ→黒腐病・べと病→コナガ→	①ネビジン粉剤 又は ネビリュウ	20～30kg／10a(播種又は定植前)	2回	根こぶ病	害虫の発生量を減らすため圃場周辺の除草をする 育苗床は害虫防除のため寒冷紗でトンネル被覆をする
下旬			②カルホス微粒剤F	6 kg／10a(播種時又は植付時)	1回	ネキリムシ類	
9月上旬	定植		③フォース粒剤	4 kg／10a(定植時)	1回	ネキリムシ類	
			エスマルクDF	1000～2000 倍 発生初期(但し、収穫前日まで)	―	ｺﾅｶﾞ	
中旬				1000 倍 発生初期(但し、収穫前日まで)	―	ﾖﾄｳﾑｼ ハイマダラノメイガ	
下旬			④コルト顆粒水和剤	3000～4000 倍(収穫前日)	3回	アブラムシ類	
				3000 倍(収穫前日)		ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ	
			⑤コテツフロアブル 又は	2000 倍(収穫前日)	2回	ｺﾅｶﾞ ﾖﾄｳﾑｼ	フェロモントラップ等で発生量を観察し防除を実施する
			⑤プレオフロアブル	1000 倍(収穫７日前)	2回		
10月上旬	追肥 土寄せ		Zボルドー	500 倍(－)	―	黒腐病・べと病	土寄せ後黒腐病の防除を実施する
中旬			スピノエース顆粒水和剤	2500～5000 倍(収穫３日前)	3回	ｺﾅｶﾞ ﾖﾄｳﾑｼ	
下旬	結球初期						アブラムシ類発生の場合は、⑩モスピラン顆粒水溶剤 2000～4000 倍 (収穫７日前・5回)を散布する
11月上旬			エスマルクDF	1000～2000 倍 発生初期(但し、収穫前日まで)	―	コナガ	
				1000 倍 発生初期(但し、収穫前日まで)	―	ﾖﾄｳﾑｼ ハイマダラノメイガ	黒腐病の発生が多い場合は、⑪カスミンボルドー1000 倍(収穫７日前・4 回)散布する

中旬			⑥アファーム乳剤	1000～2000 倍（収穫前日）	3回	ｺﾅｶﾞ ﾖﾄｳﾑｼ	降雨が多い場合は、菌核病防除の為、⑫セイビアーフロアブル20 1000 倍　（収穫前日・3回）を散布する
下旬			⑦ﾌﾟﾚﾊﾞｿﾝﾌﾛｱﾌﾞﾙ 5	2000 倍（収穫前日）	3回	ｱｵﾑｼ ﾖﾄｳﾑｼ	ヨトウムシが多い場合は、⑬フェニックス顆粒水和剤 2000～4000 倍　（収穫前日・3回）を散布する コナガが多い場合は⑭ハチハチ乳剤 1000～2000 倍（収穫 14 日前・2回）、アザミウマの場合は 1000 倍を散布する
12月上旬			⑧トルネードエースDF	1000～2000 倍（収穫 7 日前）	2回	コナガ	
中旬							
下旬	収穫						
			⑨グレーシア乳剤	2000～3000 倍（収穫 7 日前）	2回	コナガ ウワバ類 アオムシ	

☆みんなで守ろう生産基準